2014・2015年度教研テーマ
共に祈り 共に生きよう

キリスト教学校教育 9

http://www.k-doumei.or.jp/　E-mail info@k-doumei.or.jp

キリスト教学校教育同盟
〒160－0004
東京都新宿区四谷１－21
桜美林学園気付５Ｆ
電　話　03（5341）4190
ＦＡＸ　03（5341）4191
理事長　佐藤東洋士
編集人　田村　浩一
頒価200円（加盟法人の購読料は会費に含まれています）
（毎月１回15日発行）

第59回事務職員夏期学校

主題　キリスト教学校で事務職員として働くとは？

主題講演

「期待と信頼」を持って

東北学院理事　日野　哲

■はじめに

「神様から与えられた使命だと思って、引き受けてください！」

今回講師のご依頼があった際のこの言葉は、使命に生きたいと願っているクリスチャンにとってはいわば「殺し文句」です。私たちはよく「自分は何のために生きているのか」と自問しますが、これを「自分は何のために生かされているのか」と問い直してみてはどうでしょうか。自分を生かしてくださる方がいることを知り、それを隣り人に知らせること、これこそキリスト教学校で働く者の使命だと思います。

■私立学校、特にキリスト教学校がどのような歩みをしてきたか

（立教学院の寺崎昌男先生のご講演を参考に）

明治維新以降、日本の私学は大いに栄えました。特にキリスト教学校は、当時必要とされた外国語（＝英語）を学ぶために外国人宣教師によって英語学校等として開校されました。しかし、同時に民主主義や啓蒙主義などを育む土壌ともなり、国民の思想統一を図りたい国策により帝国大学をトップとするピラミッド（官高私低）が形成されると、キリスト教学校は国家原理に反する危険性を持つものとして一番下に扱われました。

その後もキリスト教学校はたびたび存廃の危機にさらされますが、特に1899（明治32）年の訓令十二号の発令（宗教教育・宗教的儀式の禁止）と、70数年前の戦時下における国策への対応は、いずれも各学校にとって消すことのできない痛みを伴う歴史となっています。今また新たに「道徳教育の教科化」への対応も迫られています。

■私が事務職員としてどのような歩みをしてきたか

私の東北学院での43年間の歩みは、まさに「恵みの軌跡（＝奇跡）」であったと言うことができます。

草創期の国際交流の整備等に業務として関わることができた恵みです。人事異動は、教学部門と管理部門の合計10部署でしたが、前部署での経験の積み重ねがすべて次の部署の業務と人間関係に役立ったことも事実です。

もう一方で、忘れられない失敗もたくさんありました。議事録作成等の際に出席者の氏名の順位を自分の思い込みで記載して指摘されたこと、外国人聴講生の留学ビザ取得の際に間違った指導をしたためその学生は帰国を余儀なくされたこと、人事異動の内示を事前にうっかり耳打ちしたことが発覚してしまったこと、そして外国人教員の氏名表記のルール作成を先延ばしにして学内に迷惑をかけてしまったことなど、数え上げればきりがありません。また、職務上行ったことが理解されず、反感をかってしまったことも多くありました。

■今、キリスト教学校の事務職員に求められていることは何か

中教審答申の「学士課程教育の構築に向けて」（2008年）では、専門性を備え管理運営（経営）に携わることができるプロの職員養成と、各学校にはそのために職員が能力を発揮する機会を確保することが求められています。

東北学院では、震災後、学長研究助成金による「職員業務研究」として、複数部署の職員が連携して解決可能な課題に取り組む制度が設けられ、昨年は障がい学生への支援、離籍者の減少策など、4つの課題について優れた研究報告がなされ、早速実施に向けて検討が進められています。

これら業務職員に共通して求められる能力や役割に加えて、キリスト教学校の職員に求められることは何でしょうか。私がずっと大切にしてきた言葉があります。それが「期待」と「信頼」です。「讃美歌」452番「正しく清くあらまし」の最初の歌詞（英語）は"I will be true, for there are those who trust me."即ち、「私は誠実でありたい。私を信頼してくれる人たちがいるから」という意味ですが、そもそも私たちは人から期待され信頼されて当然の人間でしょうか。「恵み」とは、本来それを受け取るのにふさわしくない者に無償で与えられる思いがけない素晴らしい贈り物だと言われます。私たちは、自分を生かしてくださる方（神）がまずこの恵みをもって（こんな）私に「期待」と「信頼」を置いておられることに心を向けたいと思います。

そして「あなたも生かされている、愛されている、価値のある存在である」という思いを持ちながら、学生・生徒・保護者の立場に立って「寄り添い、支える」ことこそ、ここにキリスト教学校で事務職員として働くことの意味があるように思います。

本年の事務職員夏期学校は7月25日～27日、御殿場・東山荘で開催され、34法人より89名（および実行委員10名）が参加した。校長を小暮修也氏（明治学院学院長）、主題講演を日野哲氏（東北学院理事）、牧師を塩谷直也氏（青山学院大学宗教主任）、特別講義を国友淑弘氏（桜美林大学非常勤講師）が務めた。

＜９月号目次＞
▶第59回事務職員夏期学校特集　〈２～３面〉
▶キリスト教教育者物語　〈４面〉
▶第60回東日本小学校教職員協議会　〈〃〉
▶第５回西日本小学校教職員協議会予告　〈〃〉
▶公募、行事予定　〈〃〉

キャンドルライト・サービス説教

うつくしいからあいする？

ヨハネによる福音書20・24～29

牧師　塩谷直也

美しいから愛するのでしょうか？いいえ違います。愛するから美しいのです。そこに愛があるかどうかということが大切なのです。神はあなたを愛しているから、あなたがどんなに失敗しても背を向けても、あなたを愛して止まない。そのような不思議な存在がいることを、キリスト教学校は礼拝や聖書を通して絶えず伝えているのです。

履歴書を書いた経験があると思います。学歴・職歴・資格など体裁よく自慢気に記入するのが通常の履歴書です。しかしそこに本当の姿は表れてきません。自慢気に書き上げた履歴書ではなく、履歴と履歴の間の空白の部分を何と呼ぶのでしょう。それは傷の履歴書。何ができなかったか。何を失ったか。何に傷ついたか。何に病んできたか。どんな体験で壊れたか。そんな傷の履歴書を神様はご覧になるのです。

トマスはただ一つ、復活したイエスの傷を問いました。イエスの何が奪われたか。何を失ったか。何に対して結果が出せなかったのか。そこを知りたいのです。傷を確認しなければ、イエスが本物かどうか信じないというのです。イエスの弟子達は傷一つないイエスを求めたのではありません。傷を引きずり苦しくても過去を忘れない、過去を引きずるイエスを受け入れました。過去を忘れることで前を向いたのではなく、過去を受け入れることでイエスの弟子達は前進したのです。私たちも傷跡を見直すことで、人生の歯車が回転するのではないでしょうか。

キリスト教が何故傷を大事にするのか。その傷にイエスが一緒にいてくれたと考えるからです。履歴の空白の部分に神様と出会っていたと理解するから、傷を大切にするのです。傷は断片的な無意味なものではなく、イエスへと繋がっていく、イエスとの大切な出会いの歴史です。昼となく夜となくイエスが共にいてくださったから、美しいから愛されていたのではなく、愛されていたから私の人生は美しいということがわかるのです。

〈まとめ・榎本美枝　青山学院宗教センター、事務職員夏期学校実行委員〉

〈青山学院大学宗教主任〉

事務局移転のお知らせ

現在の仮事務局（四谷）は2015年９月８日（火）より下記に再度移転いたします。

〒151－0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷１－１－12
桜美林大学千駄ヶ谷校舎１Ｆ
電　話　03・6455・5420
ＦＡＸ　03・6455・5421
メールアドレスは変わりません。

移転に際し何かとご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

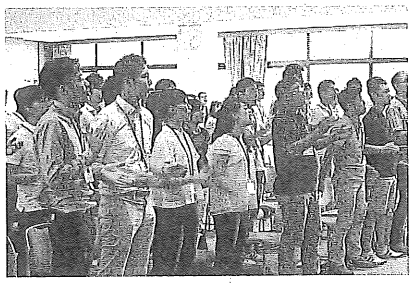
加盟校動静

静岡英和女学院
6月30日付けで武藤元昭氏が理事長を退任、7日1日付けで石井博文氏が後任に就任。

香蘭女学校
7月8日付けで植田仁太郎氏が理事長を退任、9日付けで横内允氏が後任に就任。

福岡女学院
7月31日付けで十時忠秀氏が看護大学長を退任（理事長継続）、8月1日付けで片野光男氏が後任に就任。

第59回事務職員夏期学校



特別講義

♪ゴスペルを叫ぼう！♪

アフリカ系アメリカ人の賛美とその意味について

桜美林大学非常勤講師
国友淑弘

1　ゴスペルとは

「ゴスペル（Gospel）」は「福音」を意味します。「福音」とは「Good News＝良き知らせ」のことを意味しますが、ここで言うゴスペルは音楽のジャンルのことです。そのジャンルとはアフリカ系アメリカ人が独自に創り上げてきたキリスト教音楽です。日本では教会よりも市民団体やカルチャーセンターの方が早くから人気が出ました。特に1992年に製作された映画「天使にラヴソングを！」をきっかけに愛好家が一気に増えました。20年以上経った今では教会はもちろん、教育関係にも広がりを見せています。

2　みんなで賛美した「My Life is in Your Hands」について

この歌は、1997年にカーク・フランクリンによって発売されたゴスペル・アルバム『God's Property』に収録されています。日本のゴスペル・クワイヤーでアンケートを取った結果による好きな曲の一番に選ばれています。その理由は、誰もが感じる不安や困難に寄り添うイエス・キリストと、その御手の中で守られているという信仰による確信を口にすることから、一歩を踏み出す勇気を与えてくれる歌詞にあります。

ゴスペルは、アメリカにおいて、白人によるリンチ、殺人等が最も激しい1900年前後に形成されてきています。人種的抑圧の社会における批判を基に生まれ、人間性を追求する黒人たちの信仰による生への肯定と共に、悲しみを一貫して希望へ向かわす力を持った音楽として発展して来ました。その中でもカーク・フランクリンのゴスペルは、個人的な感情と信仰を公に証しする歌詞とパフォーマンス性を重要視した、1970、80年代に形づくられたアーバン・コンテンポラリー・ゴスペル（現代的な都市型のゴスペル）のジャンルに入ります。日本ではこうしたゴスペルが今も訴求力を持っています。

3　ゴスペル賛美の適応について

ゴスペルは簡単な歌詞を何度も繰り返し、時に喉が枯れるほどに叫びます。何度も繰り返し歌っていると、その後もメロディが頭の中を回り続けます。実はそれが重要なのです。

今まさに悲しみ、苦しみの中にある人に対して「Oh Happy Day（なんと幸せな日だろう）」などを演奏すると「そういう気分じゃない、失礼だ！」と逆に叱られるでしょう。ゴスペルは人に聞かせる音楽ではありません。自身の家族や友の悲しい出来事、辛い仕事、病による不安、孤独に苦まれる時に、何度も繰り返し歌ったメロディがその人自身の口から出てくることが一番大切なのです。出てきたメロディに、ほんの少し心が軽くなる、僅かでも気分が晴れる、みんなと共に歌った時のことを思い出し笑みを浮かべる。これこそ賛美が適応された瞬間なのです。

ゴスペルは、アフリカ系アメリカ人の過酷な歴史の中で、数えきれないほどの人々の心を潤し、満たし、勇気づけ、真実の愛に導いてきました。ひとつの音楽ジャンルとしてだけでは片づけることの出来ない素晴らしい世界があるのです。

3日間のまとめ

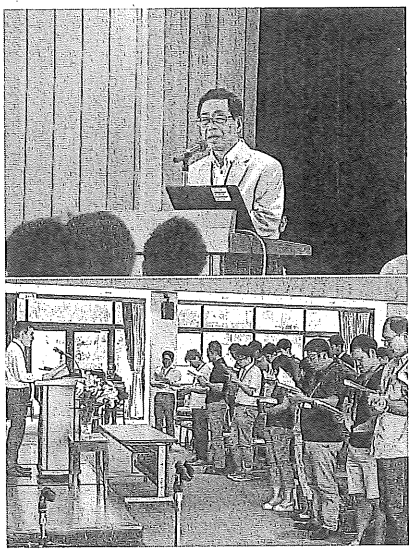
「キリスト教学校で事務職員として働くとは？」の主題の下、第59回事務職員夏期学校が御殿場東山荘を会場に開催された。同盟校34法人から89名の若手事務職員、事務局職員3名、実行委員10名が参加した。

開校の礼拝では、小暮修也校長（明治学院学院長）から、キリスト教学校をこれからも支えていって欲しい、そしてこの夏期学校の参加者たちがお互いを支え合うことが出来るように、と開校挨拶がなされ、塩谷直也牧師（青山学院大学法学部教授・大学宗教主任）から「はじまりはおわり！」と題された説教がなされた。

実行委員によるオリエンテーションの後、初対面である参加者同士の交流、親睦を深めるプログラムが執り行われ、夕刻に行われた主題講演では、日野哲講師（東北学院理事）から「『期待と信頼』を持って」と題された中で、日野講師がこれまでの職員生活で培われてきたことをベースに、参加者たちへキリスト教学校職員の意義が語られた。

2日目のグループ討議では、参加者たちは10グループに分かれ、「キリスト教学校職員として今わたしたちにできること」のテーマで討議をおこなった。自身の属する学校、他学校の建学の精神に触れながら、それぞれのグループがキリスト教学校で働くことの意義をともに考え、議論を重ねた。

特別講義では、国友淑弘講師をむかえ、参加者たちはリズムに合わせて大きく体を揺らしゴスペルを賛美した。ゴスペルは誰かに聞いてもらうことに意味があるのではなく、自分が苦労し、悩み、辛い時になど、自分のために歌うのである、ふと思い出したときにOh Happy Day を口ずさんで欲しい、と国友講師はゴスペルの根幹にあるものについて語られた。



小暮校長挨拶

主日礼拝

3日目は、グループ討議を通して各グループで作成された特性要因図の全体発表がおこなわれ、総評として、塩谷牧師からは「一教員として課題として出された意見を持ち帰りたい。今回参加された同じキリスト教学校の職員同士、つながりを大事にしていって欲しい」、日野講師からは「自校理解として、自分の学校の歴史・建学の精神をよく知って働いていくことが大事。キリスト教学校で働いていく中で良かったと感じたことがあれば、それを是非継承していって頂きたい」とコメントを頂戴した。

3日間の夏期学校は、小暮校長から「夏期学校の体験を是非大切にしてもらい、今後の職員生活の中で生かしていって頂きたい。苦しい時にこそ環境の中で、それぞれが今できることを考え、学校を支えていき児童・生徒・学生に還元されていければと願う。

〈立教学院人事部人事課、事務職員夏期学校実行委員〉

主日礼拝の献金

事務職員夏期学校で行われた主日礼拝での席上献金3万7094円は、日本聾話学校、聖公学院に贈られた。

夏期学校に参加して

与えられた使命として

青山祐季

就職活動中、図書館でたまたま目にしたのが「キリスト教学校教育」紙でした。キリスト教学校に馴染みのない私にとって、その内容は未知のものでした。その思いは入職後もほとんど変わらず、勤めながらも、自校を含めたキリスト教学校のことを多くは理解していない、という状態でした。しかし、この3日間の夏期学校を通して、自校への理解を深め、考え、新しい気づきを得ることができました。

讃美歌を歌ったり、礼拝に参加したり、主題講演や特別講義を受けることで大変有意義な時間を過ごしました。なかでも特に印象に残っているのが、グループ討議です。全国各地の大学で働く、部署や年齢の違う職員の方々と「キリスト教学校職員として、今、私たちにできること」というテーマで話し合いを行いました。討議の末に出た結論は、それぞれの学校にはキリスト教に基づいた建学の精神があり、私たち職員はその建学の精神を根底にもって、日々の仕事に励むこと、でした。各グループの発表を聞いても、たどり着いた結論はみな同じであることを感じました。

3日目の最後には、あの時またまた「キリスト教学校教育」紙を目にし、今、職員として働いていることも、神様が導いてくれたことなのではないかと思えました。キリスト教学校職員として、常にキリスト教の教えを、建学の精神を心に留めて、神様から与えられた使命として、自分の職務に一生懸命励みたいと思います。

〈東北学院大学就職キャリア支援課〉

貴重な経験のとき

石光吾郎

7月25日から27日までの3日間、事務職員夏期学校に参加させていただきました。「キリスト教学校で事務職員として働くとは」という主題のもと3日間の研修を通じ、キリスト教学校の事務職員としての心構えや自分たちに与えられた使命について考える機会となりました。私は本年4月に神戸女学院に転職し、初めてキリスト教の環境で働くことになりましたが、入職後の4ヶ月間を振り返ると、日々の業務の中で、キリスト教学校の事務職員として働くということについてあまり意識していなかったように思います。そのような中で、今回の夏期学校に参加し、他の学校ではなくキリスト教学校の職員として働くことの意義を再確認でき、自分自身にとって貴重な経験となりました。

また今回の研修では、多くの学校職員の方々と出会い、つながりを広げることができました。3日間寝食を共にし、交流を深める中で、様々な価値観に触れることができ得難いものとなりました。同じキリスト教学校の職員として、今後様々

（3面に続く）

（2面より続く）

な場面で協力し、連携することがあるかと思いますが、今回のご縁をいつまでも大切にしていくことができればと思います。

最後になりましたが、3日間に渡りご指導いただいた講師の皆様、研修の企画運営に携わられた実行委員の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

〈神戸女学院経理部施設課〉

キリスト教学校に勤めるものとして

山田哲也

今回の夏期学校に参加させていただき、改めてキリスト教学校に勤める事の意味を考えさせられました。私はキリスト教センターでの勤務のため、聖書やキリスト教的な考えでの学生対応を行っております。また、私自身がクリスチャンであるため、学生の信仰面や教会生活の相談等も受ける時もあります。そのため、普段は当然のようにキリスト教的な目線で接していますが、今回の夏期学校では多くのクリスチャンでない方々に出会い、日々の業務でも参考になる点が多々ありました。

グループワーク等を進めていく中で、クリスチャンでない職員の方々にとっては、普段の礼拝や祈祷は敷居が高く、どう接して良いかわからない点があるとの事でした。これは初めてキリスト教大学に入学してくる児童・生徒・学生にとっても同様なので、キリスト教学校職員として、児童・生徒・学生達だけでなく、職員全体にもキリスト教と触れ合いやすくなるような工夫をしていかなくてはなりません。礼拝音楽を園友先生が特別講演にて賛美していただいたゴスペルなどの導入や、塩谷先生していただいた身近な問題に着目した説教等で、単にクリスチャンの信仰面だけの礼拝ではなく、人生の中での一つのアドバイスになるような礼拝も大切であると考えさせられました。

神の御言葉を大切にしつつ、現代のニーズに合った礼拝ができるよう、キリスト教学校職員として取り組んでいきたいと思います。

〈聖学院キリスト教センター〉

アンケートから

1. 主題について（キリスト教学校で事務職員として働くとは？）

☆キリスト教学校の事務職員だからこそできることをじっくり考えることができた。☆考えれば考えるほど難しい。☆普遍的なテーマである。☆自分が働いている環境の中で今後どのようなことができるのか、どのようなことが必要。☆建学の精神を知り、歴史を学ぶことが大切と感じた。☆学生や生徒にキリスト教学校で学ぶ意味をいかに伝えていくか考える機会となった。☆キリスト教育の本質・あるべき姿を考えることができた。☆上下関係ではなく「教員」ではなく「職員」という点を深く考えたい。☆3日間の研修でもすべてをつかみきれなかった。

2. 主題講演について（日野哲講師）

☆講師自身の体験・経験を交えての話は、今後の自分の働きについて考えさせられた。☆失敗談を話され、親近感をもてた。☆時代背景がとても分かりやすかった。☆建学の精神を大切にして働いていきたい。☆論点があまりはっきりしていなかった。☆自分に課せられた使命は何かを問い続けたい。☆体験談には重みを感じる。☆どんなにつらくてもそれは乗り越えられる試練であると思えるようになった。☆今後の自分の心の持ち方・人との接し方などを見直す機会となった。☆自分とは無関係のように思えたキリスト教学校の歴史の中に今我々がどうあるべきか、守るべきものは何かが見出せると思った。☆上下関係ではなく「斜めの関係」という言葉が印象深かった。☆グループ討議で話し合うヒントがたくさんあった。☆キリスト教学校の職員であることを日頃から意識していきたい。☆業務の話についてはこれまでも聞く機会は多かったが、キリスト教視点からの仕事のとらえ方は新しい経験だった。☆キリスト教の価値観をもっと聞きたかった。

3. 特別講義について（「ゴスペルを叫ぼう！」園友淑弘講師）

☆初めてゴスペルを歌ってとても楽しかった。☆ゴスペルは自分が逆境の時つらい時に歌うものということを学んだ。☆参加者が一斉に歌う経験は貴重だった。☆講師の指導・進行がすばらしかった。☆ゴスペルの歴史が興味深かった。☆疲れた頭がリフレッシュできた。☆歌詞が見づらかった。☆気持ちよく歌えた。☆賛美のとらえ方が国や場所によって違うのだと学んだ。☆歌を通してキリスト教を知れた。☆座学だけでないアクティヴラーニングの要素が取り入れられていて良かった。☆ゴスペルといえども宗教がらみで堅苦しいという先入観を払拭してもらった。

4. 礼拝について（キャンドルサービスも含む。塩谷直也牧師）

☆愛とは何かを考えさせられた。☆自分自身を見つめることができた。☆キャンドルライトサービスは厳かで良い体験ができた。☆現場に戻っても物事を見る角度を変えることを業務に組み入れていきたい。☆礼拝に出るのは初めてで良い経験になった。☆キリスト教への理解が深まった。☆聖書の言葉はすべての人の生活に結びついていると思う。☆働く中で悩んでいたことを忘れてしまうような説教だった。☆堅苦しすぎず工夫が凝らされていた。☆聖書の内容は心にしみる部分が多く引き込まれた。

5. グループ討議について

☆自分が考えなかった視点が出されて有意義だった。☆違う学校、地域、境遇、年齢、経歴の人たちと話し合える機会は貴重だった。☆共通項を探していく作業はやりがいがあった。☆積極的に意見を出し合えた。☆意見をまとめたり言葉を共有する難しさを感じた。☆枝の部分ばかりに目が行ってしまうが、もっと姿勢や根幹の部分にも目を向けることが大切。☆もう少し一グループの人数を減らした方が話しやすい。☆時間が少なく作業が大変だった。☆達成感を感じた。☆他校との結束が強められた。☆業務におけるグループワークの練習になった。☆フィッシュボール方式では明確な目標が出しにくいのではないか。☆各校の建学の精神を知ることができて良かった。☆年代別や所属課別などのグループを組んでも良いのではないか。☆グループの人たちと仲良くなれて良かった。

6. 全体会について

☆グループにより考え方、進め方、図法が違っていて興味深かった。☆礼拝の説教の話と連携されていてよく理解できた。☆発表方法や話し方など学ぶところが多かった。☆刺激的だった。☆プレゼンの見本となった。☆全体を通して職員のキリスト教への理解や触れるチャンスが不足していると感じていることが共通していると思った。☆グループ討議の内容を再確認できた。☆自由な発表を聞いて私学のあるべき姿だと感じた。☆大学と小中高の相違部分に気づき勉強になった。☆今後の業務・スキルアップに活かしていきたい。☆建学の精神の重要性を改めて感じた。☆キリスト教学校の横の繋がりを感じた。☆様々な発表があったが、行き着くところは共通していることを感じた。

7. 讃美歌を歌おうについて（宮内隆委員）

☆讃美歌が音楽として良い曲が多いことに驚いた。☆同じ曲を何度も歌うことで身近に感じるようになった。☆歌の説明があったので歌詞を考えて歌うことができた。☆讃美歌は難しそうというイメージが払拭された。☆歌詞が深く重みを感じた。☆キリスト教学校の一員であるという意識を強く持った。☆多くの讃美歌を覚えることができた。☆リーダーの先導する歌声がすばらしかった。☆予め練習でき、礼拝で安心して歌えた。☆平日に開催できないか。☆気づかされることが多い3日間だった。☆座学だけでなく体験型のプログラムを多かったので楽しみながら学べた。☆1泊2日にできないか。☆キリスト教に対して抱いていた堅いイメージを少し変えることができた。☆できることならまた参加したい。☆2日目の夕食は立食ではなく座りたかった。☆刺激を多く与えられたが、これを活かせるかどうかは自分次第だ。☆項目が多くややタイトに感じた。

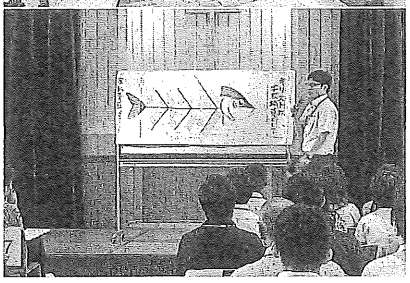
8. プログラム全体について

☆キリスト教学校で働くことを考える良い機会になった。☆他校の人との交流がとても有意義だった。☆全国で集まれる機会は少ないので参加して良かった。☆キリスト教を理解する良い機会となった。☆グループ以外の人と話す機会が少なく残念だった。☆時間配分も適当だった。☆休み時間がもう少しほしい。☆キリスト教を理解するのは難しい。☆レクリエーションの時間があると良い。☆グループでの活動時間をもう増やしてはどうか。☆平日に開催できないか。☆気づかされることが多い3日間だった。☆座学だけでなく体験型のプログラムを多かったので楽しみながら学べた。☆1泊2日にできないか。☆キリスト教に対して抱いていた堅いイメージを少し変えることができた。☆できることならまた参加したい。☆2日目の夕食は立食ではなく座りたかった。☆刺激を多く与えられたが、これを活かせるかどうかは自分次第だ。☆項目が多くややタイトに感じた。

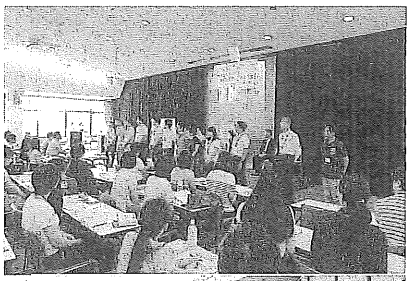
9. その他

☆実行委員・事務局に感謝。☆もう少し交通の便の良い会場にしてほしい。☆食事が美味しかった。☆讃美歌が音楽として良い曲が多いことに驚いた。☆同じ曲を何度も歌うことで身近に感じるようになった。☆歌の説明があったので歌詞を考えて歌うことができた。☆讃美歌は難しそうというイメージが払拭された。☆歌詞が深く重みを感じた。☆キリスト教学校の一員であるという意識を強く持った。☆多くの讃美歌を覚えることができた。☆リーダーの先導する歌声がすばらしかった。☆予め練習でき、礼拝で安心して歌えた。☆平日に開催できないか。☆気づかされることが多い3日間だった。☆座学だけでなく体験型のプログラムを多かったので楽しみながら学べた。☆1泊2日にできないか。☆キリスト教に対して抱いていた堅いイメージを少し変えることができた。☆できることならまた参加したい。☆2日目の夕食は立食ではなく座りたかった。☆刺激を多く与えられたが、これを活かせるかどうかは自分次第だ。☆項目が多くややタイトに感じた。

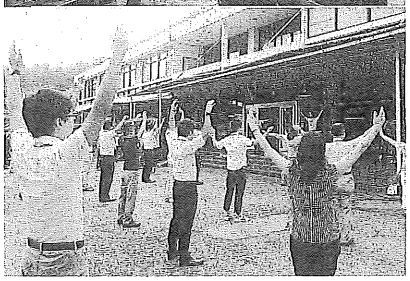
グループ討議



全体会



実行委員紹介



朝の体操

キリスト教教育者物語 ㉚

ブゼル先生

尚絅学院

尚絅女学校の初代校長A.S.ブゼル（1866～1936）が最も心血を注いだのは聖書の授業でした。全66巻の他にキリスト教教義も講義しました。次に英語。読む、聴く、話す、書く以外に文法、作文、修辞学も教えました。そして音楽。音楽は「神に対する礼讃の表現」と考え、その理論、読譜法、英語讃美歌、オルガン指導など早朝や土曜日の午後も使って教えたようです。さらに育児法や編物も教え、「校長としての校務を果たしながら１週28時間の授業を行っていた」と『尚絅女学院100年史』にあります。（p.119）

ブゼルは学校や教会だけでなく、社会に対しても強い使命感を持っていました。旧制二高の学生に対するバイブルクラス、自営館の管理・運営、休暇中も訪問伝道、傷病兵や病人の慰問など、とにかく休まず働き、質素な生活をし、節約して貧しい学生を援助しました。それが非難の的になったことも。晩年は遠野で幼稚園を開設して幼子のために働きました。仙台市北山の墓誌には「わが父は今に至るまで働き給う、我もまた働くなり」（ヨハネによる福音書5:17）と刻まれています。

同窓会機関誌『むつみのくさり』の創刊号（1907年）にブゼルのメッセージが英文で掲載されています。どんなに目立たぬ存在あろうと「私たちがgoodである時、世界ははじめて私たちの存在によって、良き所となるのです。...Be a good girl, God will bless you and make you a blessing to the world.」まさに他者の為に生き全ての栄光を神に帰した人生でした。

現在、尚絅学院はブゼルが身をもって教えた人間の生き方を目標とする教育を行っています。

東　義也〈尚絅学院大学宗教部長〉

第60回東日本小学校教職員協議会
関東学院小学校で開催される

山本与志春氏の講演

去る6月20日（土）9時30分より15時50分まで、「キリスト教学校教育の歴史を学ぶ一節目の年に未来を展望する―」という主題のもと、第60回東日本小学校教職員協議会が開催されました。会場は、新校舎が完成したばかりの関東学院小学校。午前中は新校舎の最上階にある礼拝堂に参加者316名が一同に集まり、開会礼拝を守りました。礼拝は、関東学院学院長の小河陽先生がマルコによる福音書の御言葉から「共同体の形成に向けて―私たちに逆らわない者は私たちの味方―」と題して、キリスト教学校の有り様について解き明かしてくださいました。

その後、小学部会委員長の山本香織先生が、記念すべき60回目の協議会で、改めて過去を学び、未来を展望し、さらに私たちの使命とは何かを考える一日としたいとごあいさつをしました。

続いて、今回の主題「キリスト教学校教育の歴史を学ぶ一節目の年に未来を展望する―」と題して青山学院常務理事の山本与志春先生の講演を聴く機会が与えられました。山本先生はまず、キリスト教学校が明治の時代からどのような状況に置かれていたのかを語られました。そして、キリスト教学校の教育について語ってくださいました。先生は、キリスト教学校の教育の目的は「自立と自律そして共生」と言われました。「自立」は自ら動くこと、活力であり、自己肯定感をもたらすもの。「自律」は自制で、忍耐をもたらし、希望を生み出す。また、「共生」は共に生きるということを学ばせるスキルの学習であり、共感し、協働することであり、思いやりや愛を育む、のです。また、キリスト教学校の教師として3つのことを語られました。第一に、生徒と共に担う、第二に保護者と共に担う、第三は同僚と共に担う。「担う」ということは、信じるということ。例えば、生徒と共に担い合うということは、教師は子どもの光を見つけ、つまり、子どもの長所を見つけてあげるということ。誰も気づいていないようなその子どもの良さを見つけること。その良さを見つけてもらった子どもは、自分の価値を知ることができ、自己肯定感を持つことができるようになる、ということを話されました。そして、最後にマタイによる福音書5章9節を引用し、「教育は未来を創る仕事」「平和な世界を創り出す人を育てる」と話されました。

午後は担当校の発表による分科会、フリートーキング、テーマをめぐるシンポジウムに分かれて学びを深めました。最後に、参加者全員が集まりお茶の会を持ち、今年度キリスト教学校に奉職した新教員の紹介を暖かい雰囲気の中で行われ、閉会となりました。

小澤淳一〈青山学院初等部宗教主任〉

西日本小学校教職員協議会

近年、関西地区および西南地区に新たに小学校が数校設立されたことにより、従前の小学校教職員協議会が、東日本と西日本との2つの協議会として動き出して10年になろうとしている。

現在、関西地区と西南地区には、10校ある。

西日本小学校教職員協議会は、地域の広がりを考えて、開催は隔年となっている。

第1回は近江兄弟社小学校で、第5回は来年度関西学院初等部で開催される。

公募

※採用予定日は特記以外16年4月1日です。

▽尚絅学院大学
▽総合人間科学部現代社会学科
職種＝財政学及び公共経済学　准教授又は講師　1名
▼総合人間科学研究科及び総合人間科学部人間心理学科
職種＝心理学専攻及び臨床心理学　教授1名
応募締切＝9月30日
問合せ＝☎022-381-3496
▽桜美林大学
▼総合科学系
職種＝健康・スポーツ科学　教授、准教授又は専任講師1名
応募締切＝9月30日
問合せ＝songyuu@obirin.ac.jp
▽大阪女学院大学・短期大学
▼大学国際・英語学部、短大英語科
職種＝全学必修英語科目　准教授又は専任講師　大学・短大各2名
応募締切＝9月24日
問合せ＝☎06-6761-4013
▽松山東雲短期大学
▼生活科学科
職種＝栄養教育論、他　准教授又は講師1名
応募締切＝9月30日
問合せ＝☎089-931-6211
▽北星学園女子中学校・高等学校
職種＝理科期限付き嘱託教員2名
応募締切＝9月18日
問合せ＝☎011-561-7153
▽青山学院中等部
職種＝国語科、聖書科特別教諭（専任教員）各1名
応募締切＝国語科＝9月17日、聖書科＝30日
問合せ＝☎03-3407-7453
▽香蘭女学校中等科・高等科
職種＝国語科、理科（生物）、司書教諭専任教諭各1名、国語科、理科（生物）講師各1名
応募締切＝9月26日
問合せ＝☎03-3786-1136
▽立教新座中学校・高等学校
職種＝英語科教諭1名
応募締切＝10月19日
問合せ＝☎048-471-2223
▽静岡英和女学院中学校・高等学校
職種＝聖書科常勤講師1名
応募締切＝11月30日
問合せ＝☎054-254-7401
▽済美高等学校
職種＝家庭科教諭若干名
応募締切＝10月7日
問合せ＝☎058-271-0345
▽同志社女子中学校・高等学校
職種＝数学科専任教員1名
応募締切＝10月7日
問合せ＝☎0775-251-4312
▽聖学院小学校
職種＝全科特任教諭若干名
応募締切＝9月18日
問合せ＝☎03-3917-1555
▽宮城学院
職種＝事務職員（職務経験者）若干名
応募締切＝9月24日
問合せ＝seiyo@mgu.ac.jp
▽フェリス女学院
職種＝専任事務職員（新卒）若干名
応募締切＝9月28日
問合せ＝☎045-662-4512
▽フェリス女学院大学
職種＝事務臨時職員1名
採用予定日＝10月初旬
応募締切＝9月23日
問合せ＝☎045-812-9127

事務局だより

暦の上では8日が白露。確かに夕暮れが日に日に早くなり、秋の訪れを少しずつ感じ出した今日この頃です。季節の移り変わりに、暑さにぐったりしていた身も心も蘇ってきます。

空の抜けるような青さの中を、赤とんぼがすいすい飛び交っているのを見ると、心が躍ります。既に8月下旬には新しい学期が始まっている学校もあることでしょう。大学ではやっと9月に入って、まとまった休暇が取れているのでしょうか。

事務局では、この夏、新たに6つのプロジェクト委員会が開かれたこと、また地区行事にも出席し、地方の学校の方々と身近に接し、語ってこそ知るところもあろうと、出来るだけ研修会に出向いたことから、ほぼ休みは消えていきました。

キリスト教教育の基本は、言葉もさることながら体験だと思い至った次第です。各地の違いが言葉で知らされても、とても言葉では知ったことにはならないようです。そこに出向き、そこにいる人に出会って初めて、何が問題になっているかがほんの少しかもしれませんが感じられてきます。追体験することの大切さを感じさせられました。

教員も事務職員の方も、児童・生徒・学生の一人ひとりと接してこその教員であり、事務職員であることを感じた夏の日々でした。

西南地区の事務職員研修会では、同室の3人の事務職員の方と遅くまで話し、この出会いに、今もその楽しさがこみ上げてきます。

それぞれの地で、それぞれの、なお頑張ってみましょう、そしてまたお会いしましょうと散会しました。

コリントの信徒への手紙一4章8節「詮方（せんかた）尽くれども、希望（のぞみ）を失わず」（文語訳）

（主事）

<行事予定>
9／26　全国広報委員会（横浜共立学園）
10／1、2　第7回キリスト教活動担当事務職員研修会（西南学院大学）
4～6　第57回中高研究集会（沖縄三育学院、他）
9～11　第10回全国聖書科研究集会（ぎのわんセミナーハウス、他）
11／13、14　第57回学校代表者協議会（同志社）
23　キリスト教学校教育懇談会第13回講演会（プール学院中学校・高等学校）
2016年
6／10～11　第104回定時総会（西南学院）